

「子供の森」計画

in バングラデシュ



「子供の森」計画積極展開地域：ダッカ、チッタゴン



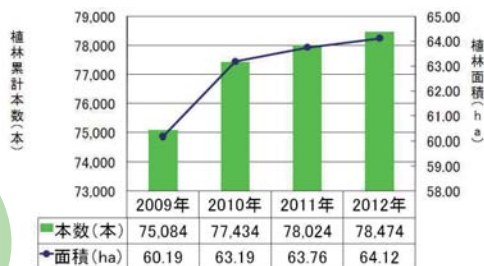
2012年の活動と2013年の展望

子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。海抜が低い地帯の多いバングラデシュでは、海面上昇による沿岸の浸食を防ぐため、そして海辺の豊かな生態系を回復させるために、海岸線でのマングローブ植林に力を入れています。また深刻な被害は浸食だけではありません。2012年6月には、大雨による洪水、地滑りのためチッタゴンやシレットなどの地域で大きな被害が出ました。「子供の森」計画に参加している学校の一つも残念ながら被害にあってしまい、学校の校舎は床上浸水し、また植林活動のために子どもたちが一生懸

命に育てたマホガニーの苗場も水没し苗木は全て死んでしまいました。このような被害にあいながらも、子どもたちは、洪水の原因の一つである上流域の森林伐採の問題について勉強をしたり、新しい苗木のために苗床の整備を始めたりと、再び動き始めています。これからも引き続きこの地域の子どもたちの活動を応援いただけますようお願いいたします。

2012年植林実績：植林 450 本・面積 0.36 ha
「子供の森」計画参加学校数：220 校（1992 年からの累計値）

2012年までの植林実績



バングラデシュ

- ◆人口：148.455百万人
(2012年IMF推計値 日本は127.896百万人)
- ◆面積：143,998km²
(総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km²)
- ◆一人当たりGDP：766.935US\$
(2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$)
- ◆森林率：11%
(2010年FAO公表値 日本は69%)

バングラデシュの活動を支援して下さる方を募集しています。
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

ベルマークや書き損じはがきも募集しています。

ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。
事務局までお送りください。

「子供の森」計画情報提供サイト
www.kodomo-mori.info



事務局



公益財団法人
オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111 E-mail oisca@oisca.org
<http://www.oisca.org/>



木が育む心

年々子どもの数が増え続けるハティマラ高校では、増加する生徒数に対応するため、現在校舎を増築中です。生徒数が多くなると一般的には学校の規則を守らない生徒が増えるなど校風が乱れてくることが心配されます。しかしこの学校は近所でも評判の規則正しい生徒たちで知られています。校長先生によると実はこれには、「子供の森」計画の一つの成果ということ。子どもたちは校庭に植えた苗木の管理を担当制で行うことになっており、生徒たちは



ヒモが足らず草をちぎって結ぶ。
子どもたちは臨機応変です

これを自主的に管理し、お互いの当番の役割分担を守っているかをチェックし合うことで、規則を守る習慣を身につけることが出来ていると言えます。また、毎日木に触れ、

木々が成長する様子を見ていることは、子どもたちの心を豊かにする効果もあるようです。

近年の目覚ましい経済発展に伴って、首都ダッカ近郊では自然が急速に失われています。このような都市部でこそ自然と関わる一つの機会として、また子どもたちの心を豊かにするきっかけとして「子供の森」計画を今後も進めていきたいと考えています。



緑豊かな学校となるよう
増築中の校舎の前に植
林しました



家畜との共生

これまでの長年の活動の中で、いつも抱えていた悩みがあります。それは家畜によってせっかく植えた苗木が食べられてしまうという問題です。近隣住民の多くは、農業や漁業を営みながら家畜を放し飼いにしています。仕事を手伝ってくれる牛、水牛、収入源となるヤギ、ヒツジ、牛、これらの住民にとってとても貴重な家畜は、一方で全てが若い苗木にとっては脅威となります。しかし、決して裕福とは言えないこの地域において、地域の自然環境を保全するためとはいえ、「家畜の放し飼いをやめて下さい」とお願いすることはできません。そこで学校側では数年前から資金を積み立てを始め、またオイスカの協力もあり、今年ようやく、学校の周囲を囲むフェンスを設置する事ができました。このフェンス設置に取り組んだヌルル・ホサイン校長先生は、「近隣の皆さんとの良い関係を保ちながら活動を

続けられる。それが一番嬉しいことだ」と喜びを語るとともに、より一層子どもたちに植林の意義を伝えながらの活動に力を入れることを約束してくれました。



家畜による被害の心配がなくなり、生徒達も安心です



学校をぐるりと囲むフェンスに守られる苗

TOPICS

ジュート(インド麻)とバングラデシュ

みなさん、世界中のジュート生産量の約25%がバングラデシュで生産されていることをご存知でしょうか？バングラデシュでなぜジュート産業が盛んかというと、それは気候風土が適しているからなのです。この植物が好む高温多湿な気候に砂質土壌、さらに収穫後に繊維生産のために必要とされる大量の水、それら全てがここには揃っており、多くの農家が生産に取り組んでいます。日本へもバングラデシュ産のジュート製品が多く輸出されています。茎の部分の皮を利用した100%植物由来の材料ですから、廃棄する際の環境への負荷も小さいです。ゴミ問題が世界中で課題となっている中、今後もこの素材への注目が高まりそうです。

ジュート製のトートバッグ。
デザインも素敵です



成長した茎の皮を利用します。
芯の部分は薪として燃料に